

## 2016年3月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。個人消費が依然盛り上がりを欠き、公共投資も減少傾向が続いています。一方、雇用環境は改善傾向が続いており、観光もオフシーズンながら外国人客の入込みを中心に堅調を持続しています。このため、道北地域の景気は、基調的には持ち直しの方向にあるとみています。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、2月は前年比▲1.0%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。衣料品が不冴えです。もっとも、各店一様に減少している訳ではなく、売上を伸ばしている先もあります。地域別には、旭川市内のマイナス幅が大きい傾向が続いていますが、その後も地域により区々です。店舗間の競争が引続き厳しいようです。
- 2月の新車登録台数は、前年比▲3.6%でした。1月に13か月ぶりにプラス転化しましたが、再び水面下です。「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は+0.0%で前年比横ばいでした。普通乗用車は新車投入効果からプラスを維持していますが、一部メーカーで事故による操業停止があった影響も若干出ているようです。「軽自動車」は▲9.3%と依然マイナスでした。

### ■観光の動向

- 2月のホテル・旅館の宿泊客数は前年比▲0.2%と微減でした。市内のホテルの稼働率は、ホテル間の競争が増していることもあって、昨年11月以降

4か月続けて前年の水準を下回っています(2月87.9%<前年92.6%>)。ただ、昨年が特殊要因(イオン開業前の諸準備)で伸びた反動もあると思われます。

外国人客は引続き増加しているようです。中国、台湾からの観光客に加え、豪州や欧州からのスキー客も増えているとの話が色々な所で聞かれます。

「観光地点動向」をみると、全体では前年比▲0.2%と横這いないし微減、場所によって区々でした。空港旅客数は、道北4空港合計で前年比+8.0%(旭川空港は同+7.9%)、国際線利用客数は同+11.8%でした。以上を踏まえると、観光に関しては、ホテルの競争は激しさを増しているものの、引続き堅調を維持しているものと考えられます。

## ■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、2月は前年比▲12.5%でした。冬場なので、今月も金額は少ないです。昨年4月からの累計でみると、前年比▲13.6%となっています。前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、今年度は減少の方向が続いています。今年度の補正予算を含めた16年度の公共事業に期待する声が聞かれています。

## ■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。1月の有効求人倍率は、旭川が0.99倍(前年0.88倍)、稚内は0.89倍(同0.83倍)、北見は1.00倍(同0.94倍)、網走は0.99倍(同0.96倍)でした。

## ■今後のポイント

- 全体の基調に変化はありません。
- わが国全体の経済動向をみると、日本銀行は、1月29日の政策委員会で「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を導入しました。その後、日本銀行は、3月14～15日の政策委員会で、足許の景気に関し、「新興国経済の減速の影響などから輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調としては緩やか

な回復が続けている」との判断を示しました。もっとも、当地経済は、もともと輸出産業が少ないことから、新興国経済の減速の影響はあまり感じられていません。ただ、年初来の株安、円高に伴い、企業や消費者の先行きの不安感が増し、マインドが慎重化してしまうと、实体经济に影響が出てくる可能性もありますので、この点は、今後留意する必要があると思われます。4月1日に短観結果の公表を予定していますので、当面はその内容に注目したいと思います。

以 上